
キミたちへ

倅

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キミたちへ

【Nコード】

N5994A

【作者名】

倅

【あらすじ】

キミたちを見守ってきた“俺”は最近思ったんだ。それでいいのか？と…

（前書き）

大変読みにくい話になってます、すみません

キミタチが住んでいる世界とはちょっと違った空間で俺は暮らしている。

同じように呼吸をして同じ時間を生きている。

キミタチと違うところは寿命が長いこと。長い間キミタチを見守ってきた。

俺の住む空間は“電波”が飛び交っていてちょっとスリリングな所なんだが、最近その“電波”で手紙が送れるようになったんだよな？

「頑張った、頑張ったね〜キミタチ」

長く見守って来た者として、文明の進化に拍手を贈ろう。

俺の仕事はキミタチを見守ること。だから結構暇があって、たまに飛んでくる“電波”を拝見させてもらってるけど、

「みんなそれでいいのかい？」

って内容もしばしば。大事な事は口に出さなきゃ、心は伝わらないよ？

仕事の一環で今日はキミタチに繁華街って呼ばれてる街に来てる。寂しいね、寂しすぎる。その女の子、キミの純情を捨てて何をしようとしてる？純情と引き替えにもらえるひとときの快樂は、キミ

に何を残す？

そのオヤジ、キミはなんでそんなに途方に暮れてる？まだまだキミが背負わなきゃいけない世の中、希望を枯らしちゃ何にもなんない。

ある人なんて自分が弱い者なのをいい事に、ルールを盾に自分勝手な意見を押し付けている。

それはちよつと理不尽過ぎではないか？ルールも例外だってあるのに、自分の事しか考えてないようじゃ、何の為のルールなのかかわかりやしない。

キミたち、文明の進化にのまれるあまりに大事なものを忘れてるね。

流行りに捕われて自分を見失ってる。

自分勝手に考えすぎてる。

俺の空間に比べりゃキミたちは幸せなんだぜ？色んなものが溢れてて、幸せになるも不幸になるのもキミたち次第。

そんなんじゃダメだとどつかのロックンローラーも必死に歌うんだけど、誰も気付きやしない。堕ちるところまで堕ちてから気付いても遅いんだよ。もっと周りを見て、自分ばかりじゃダメだ。

飛び交う“電波”にのせた言葉から、空を仰ぐその姿から、俺はキミたちからのSOSを感じる。

さて、SOSを受け取ったからには俺も一肌脱ごうかね？見守るだけじゃ危なっかしいキミたち。

これからどうしようか？助けてやってもいいが、どう行くか行かな

いかはキミタチ次第だし、何よりキミタチ自身の力で立ち直らないと、意味はない。

「んっ…」

よし俺は最後まで見守つてやる。でもたまにはヒントをやるから、ちよつとはあがけよ？ただ今の時代そう簡単にはいかないみたいだから、覚悟はあるぜ？自分らより“おかしな奴”は平気で仲間外れする時代だ。

『違う世界ならここより幸せなのかな？』

俺の空間の方がいいっていうなら大きな間違いだからな。キミタチはそこで生を受けたから、その空間で生きなきゃいけない。幸せもそこで見つけないといけない。逃げたくても逃げられない現実だ。

本当のキミタチはつまずいても、また頑張ろうとする素晴らしい生き物だ。一つの絶対的な目的が見つかれば道端に咲く花のように、詰まれてもまた咲こうとする。

「だから見守ることを辞めれないのさ」

だから救つてあげだくなる。

だから頑張れ、キミタチ。

「最後まで付き合っぜ、俺が果てるまで。俺が果てる頃には、キミ
たちはキミたちの力で最高の世界にたどり着けるだろうから」

キミたちの手で作り上げた最高の世界にね。

（後書き）

ここまで読んでいただきありがとうございました！

この話（？）は、とある歌手の歌をイメージして書いたため、「なんのこっちゃ？」な内容になってしまいました…。しかも曲とはかけなかれてるような…。

文中には私個人の思ったこともチラホラ入ってます。一個人の考えとして、受け止めていただけると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5994a/>

キミたちへ

2010年10月10日00時27分発行